京極読書新聞 ＜第12号＞

発行日　平成22年　5月　1日（土）
京極町生涯学習センター湧学館

京極から文学散歩　　第1回　回復する宮沢賢治

湧学館司書　新谷　保人（あらや・やすひと）

宮沢賢治が北海道に来たのは生涯に二度。最初の旅は、大正12年（1923年）7月末の樺太旅行。当時、日露戦争に勝利した日本はロシアからサハリン（樺太）の南半分を得、そこにはたくさんの企業や工場が進出していました。岩手県立花巻農学校の教師をしていた宮沢賢治も、樺太・豊原市の王子製紙工場に勤める後輩を頼って、農学校生徒の就職をお願いしに行ったのです。ただし、これは表向きの理由です。

賢治の心は空虚でした。じつは、前年の暮れに賢治のよき理解者だった妹・トシが肺結核で死んだのです。24歳という若さの痛ましい死。厳格な家の中で一人だけ浮いていた賢治をいつも応援してくれたトシがいなくなったことは、賢治の心をドーンと不安定感や悲しみの中に沈みこませたのです。じつに半年間も！樺太へ旅立つ夜行列車で賢治はこううたいます。

こんなやみよののはらのなかをゆくときは
客車のまどはみんな水族館の窓になる

宮沢賢治の詩集「春と修羅」には、トシの死をうたった詩を集めた「無声慟哭」という有名な章がありますが、その次の章が「オホーツク挽歌」。この大正12年夏の樺太旅行を描いた章なのでした。「こんなやみよののはらのなかを…」とうたい出した旅は、賢治の心をどこに連れて行ったのでしょうか。

どこに行ったのかを知る手がかりが、じつは二度目の北海道旅行にあります。翌大正13年5月の修学旅行。生徒を引率した宮沢賢治は、朝九時の小樽駅に降り立ちます。

午前九時小樽駅に着、直ちに丘上の
高等商業学校を参観す。案内に依て各室を順覧せり。…

いったいどういう変化なのでしょうか？ 去年あそこまで落ちこんでいた賢治とは別人のような宮沢賢治がこの「修学旅行復命書」には現れています。小樽高等商業学校は現在の小樽商科大学。賢治は「直ちに丘上の」とサラッと書いていますが、この小樽高商への道は地元の人が「地獄坂」と名づけるほどの急で長い坂道なのです。そこを、花巻から車中泊で来た生徒といっしょに駆け上がって行く宮沢先生… すごい！ 賢治のなにかが変わった。

湧学館では、毎月第2週の金曜日夜7時から「後志の文学」読書会を開きます。5月14日（金）の今年度第1回読書会は、この宮沢賢治「修学旅行復命書」。落ちこんだ宮沢賢治の心が北への旅の中でどのように回復して行ったのかをたどります。

京極読書新聞第13号は
6月1日(火)発行予定です

中学生にこの一冊！

今年の春はなかなか暖かくなりませんが、積もった雪は着々と解けてきていますね。そろそろ外に出て、体を動かしたい人もいるでしょうか？ 6月の体育大会・運動会を先取りして、今回はスポーツ関連の本を紹介します。

◆「ラスト・イニング」 あさのあつこ/著

あさのあつこさんといえば、ピッチャー巧の成長を描く「バッテリー」を知っている人は多いのではないでしょうか？こちらはその後日談になります。

野球の強豪・横手二中を卒業した門脇と瑞垣。卒業しても新田東中の巧・豪との試合を忘れることができず、進路にまで影響を及ぼしてしまう…。それぞれが悩みながらも、自分の進む道をしっかりと決めていく姿は頼もしくて、今後を応援したくなります。

◆「SPORTSシューズのひみつ」 新星出版社編集部/編

スポーツによって、その競技に合わせた専用の靴があります。しかし、実際どこが違うのでしょうか？

「野球シューズはつま先を補強するパーツがある」「ハンマー投げのシューズと卓球のシューズは特徴が同じ」「バレエのトゥシューズは左右が同じ形」など、その競技をやっていないとわからないひみつから「昔のスケート靴は下駄だった」という靴の歴史まで盛りだくさん。選手を陰で支える職人三村さんのインタビューを読むと、自分にあった靴が欲しくなること間違いなし！

湧学館司書　向出 絵梨香（むこうで・えりか）

オリンピックでの日本チームの活躍でずい分知名度が上がってきていますが、まだまだマイナーな冬のスポーツ「カーリング」。そんなカーリングを題材にした小説が2冊あります。

◆「青森ドロップキッカーズ」 森沢　明夫/著

いじめられっ子の中学生、中途半端な不良、頂点をめざして氷上で闘う姉妹、見た目も性格も違う4人が競技を通して成長していく様が描かれています。
”氷の上でお掃除をしているようなお気楽スポーツ？”に見えるカーリングが実はとても奥深い競技だというのがわかります。

◆「シムソンズ」 森谷雄/著

これは2002年ソルトレークシティオリンピックのカーリング日本女子代表をモデルにしたお話です。舞台は日本でのカーリング発祥の地とも言われる北海道常呂町。やりたいことが見つからない女子高生が憧れのカーリング選手に触発され、経験もないのに友人たちとカーリングチームを結成。そして無謀にも強豪チーム打倒を誓うのですが。。。

主人公の1人”菜摘”のモデルは2年前に京極中学校に講演に来てくれたこともある小野寺歩さんだそうです。生徒の中にはどんなお話をしてくれたか覚えている人もいるではないでしょうか。また、小野寺さんの書いた「カーリング魂」を読むと彼女のこの競技に対する熱い思いが伝わってきます。

湧学館　打越 靖子（うちこし・やすこ）

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101　京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700（代表）
FAX 0136-42-2032
E-Mail　yugakukan@town-kyogoku.jp

ホームページもご覧ください
http://lib-kyogoku.cubet.com/